

令和4年度学力調査結果について

(全国学力・学習状況調査 概要)

令和4年8月

益田市教育委員会

益田市全体の結果概要

I 全国学力・学習状況調査について

1 目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査実施日

令和4年4月19日（火）

3 調査の内容

(1) 主な変更点

①教科の追加

- ・今年度は、国語科、算数科に加え理科も実施（小学校、中学校ともに）

(2) 教科に関する調査

国語、算数・数学は、それぞれ次の①と②を一体的に出題
①身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容

(3) 質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 実施学校数・学年・教科等・人数

実施学年 学校数	教科に関する調査			意識調査
	国語	算数・数学	理科	
小学6年生 15校	329人	329人	315人	328人
中学3年生 9校	373人	372人	372人	372人

II 用語

- 「正答率」…各学年・教科において、児童生徒個人が正答した問題の割合(%)を全国又は島根県、益田市単位で平均した値
- 「領域」…各教科の学習内容を系統的に示したもの。例えば、算数では「数と計算」「図形」等
- 「無解答率」…教科の各設問において、無解答であった児童生徒の割合(%)

III 公表について

1 公表の内容

教科に関する調査及び生活習慣や学校環境等に関する質問紙調査について、益田市全体の結果

2 公表結果に関する留意事項

本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力や生活意識等の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎないこと。

したがって、数値の細かな差のみに着目するのではなく、全体の傾向を大きく捉えたり、無解答率や誤答等も含めて、成果と課題を丁寧に捉えたりすることが必要である。

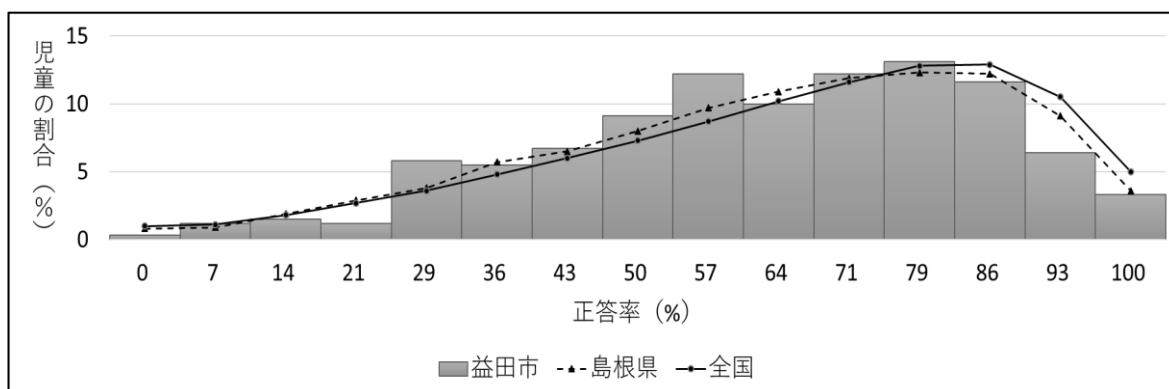
IV 教科に関する調査の結果

1 結果の概要

- ・各教科平均正答率について、小6の国語、理科は、全国平均を2～3ポイント下回り、県平均とほぼ同水準であった。算数については全国平均と同水準であり、県平均を2ポイント上回った。中3については国語、数学、理科ともに全国平均及び県平均を2～6ポイント下回った。
- ・小6算数は、全ての領域で全国平均と同水準であり、県平均を上回った。
- ・中3国語は、全ての領域で全国平均、県平均を下回った。

2 各教科の正答数分布状況と解答状況から特に課題の見られた設問

【小学校6年生 国語】 ○：市が3ポイント以上上回るもの ▽：市が3ポイント以上下回るもの



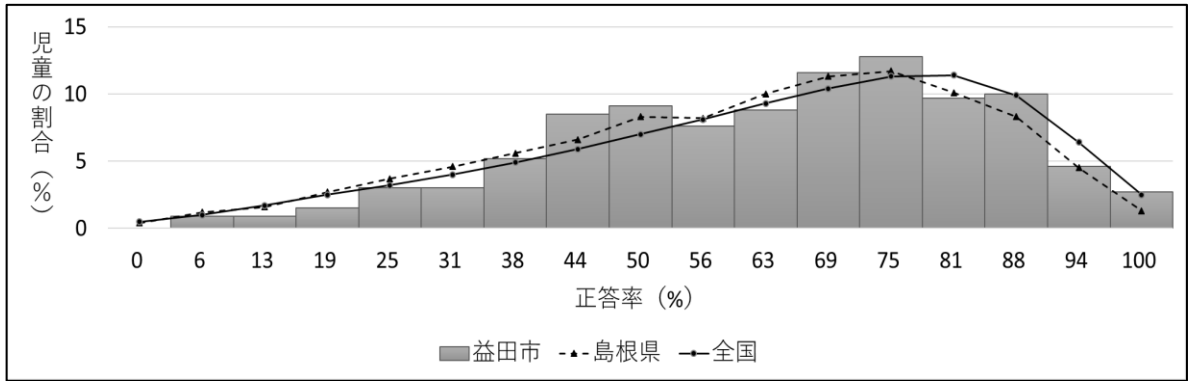
		益田市	全国	益田市－全国	県	益田市－県
教科総合		63	66	▽	64	-1
内容	言葉の特徴や使い方に関する事項	66	69	▽	69	▽
	我が国の言語文化に関する事項	84	78	○	82	2
	話すこと・聞くこと	64	66		64	0
	書くこと	48	49		47	1
	読むこと	62	67	▽	62	0

- ・市平均正答率は、63%であり、全国よりも3ポイント下回っている。
- ・「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、3～5ポイント下回っている。
- ・「我が国の言語文化に関する事項」については、全国平均を6ポイント上回っている。

特に課題がみられた設問と正答率全国差	無解答が多かった設問とその無解答率の全国との差
<ul style="list-style-type: none"> ・【山村さんの文章】の(B)に入る内容として適切なものを選択する(－10ポイント) ・【文章2】の□の部分、どのようなことに気を付けて書いたのか、適切なものを選択する(－7ポイント) ・「老人」が未来の「ぼく」だと考えられるところとして適切なものを選択する(－6ポイント) ・【文章2】の中の____ 部イを、漢字を使って書き直す(－6ポイント) 	<ul style="list-style-type: none"> ・【文章2】の中の____ 部ウを、漢字を使って書き直す(19ポイント 差－4ポイント) ・物語から伝わってくることを考え、【森田さんの文章】の(A)に入る内容を書く(14ポイント 差－2ポイント) ・【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く(14ポイント 差±0)

【小学校6年生 算数】

○：市が3ポイント以上上回るもの ▽：市が3ポイント以上下回るもの



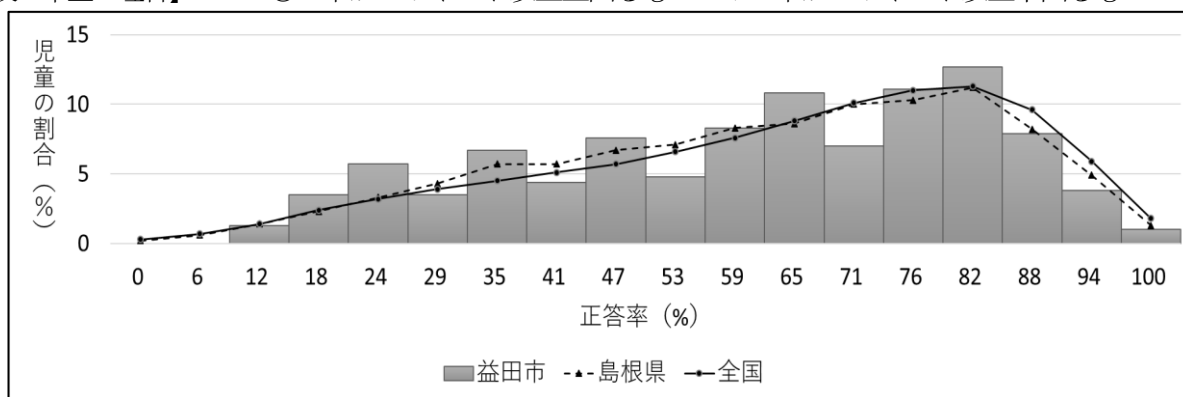
		益田市	全国	益田市－全国	県	益田市－県	
教科総合		63	63		0	61	2
領域	数と計算	70	70		0	68	2
	図形	65	64	1	61	○	4
	変化と関係	51	51		0	49	2
	データの活用	69	69		0	67	2

・市平均正答率は、63%で全国と同等である。

特に課題がみられた設問と正答率全国差	無解答が多かった設問とその無解答率の全国との差
・全国と比べ特に正答率に差が見られた設問はなかった。	・全国と比べ特に無回答率に差が見られた設問はなかった。

【小学校6年生 理科】

○：市が3ポイント以上上回るもの ▽：市が3ポイント以上下回るもの

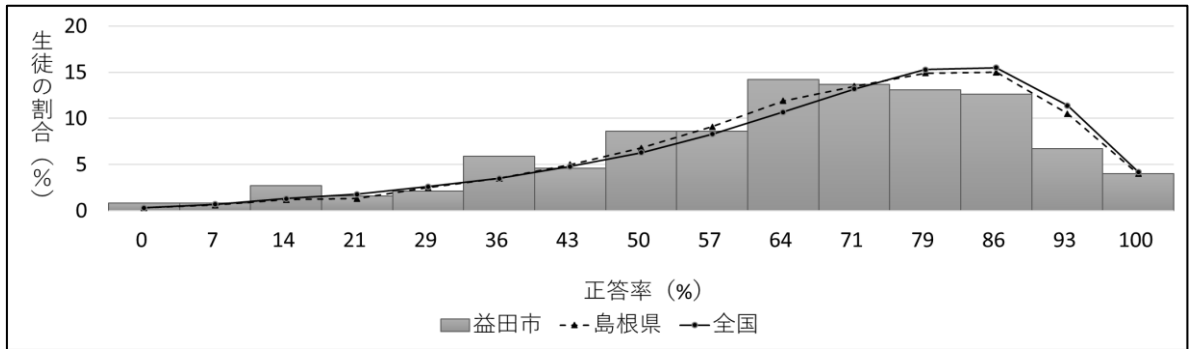


		益田市	全国	益田市－全国	県	益田市－県
教科総合		61	63	-2	62	-1
領域	「エネルギー」を柱とする領域	50	52	-2	50	0
	「粒子」を柱とする領域	57	60	▽	59	-2
	「生命」を柱とする領域	73	75	-2	74	-1
	「地球」を柱とする領域	62	65	▽	62	0

- ・市平均正答率は、61%で全国よりも2ポイント下回っている。
- ・「粒子」を柱とする領域、「地球」を柱とする領域がともに3ポイント全国平均を下回っている。

特に課題がみられた設問と正答率全国差	無解答が多かった設問とその無解答率の全国との差
<ul style="list-style-type: none"> ・水溶液の凍り方について、実験の結果を基に、それぞれの水溶液が凍る温度を見だし、問題に対するまとめを選ぶ(-11ポイント) ・鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したものかを書く(-6ポイント) ・水50mLをはかり取る際に、メスシリンダーに入れた水の量を正しく読み取り、さらにスポイトで加える水の量を選ぶ(-5ポイント) ・昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選ぶ(-5ポイント) 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く(12ポイント 差-1ポイント)

【中学校3年生 国語】 ○：市が3ポイント以上上回るもの ▽：市が3ポイント以上下回るもの

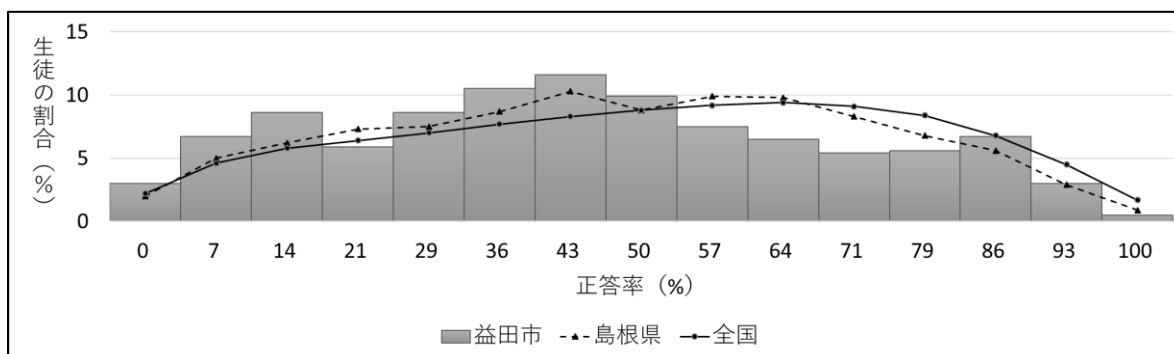


		益田市	全国	益田市－全国	県	益田市－県
教科総合		65	69	▽	69	▽
内容	言葉の特徴や使い方に関する事項	67	72	▽	72	▽
	情報の扱い方に関する事項	41	47	▽	47	▽
	我が国の言語文化に関する事項	68	70		71	▽
	話すこと・聞くこと	61	64	▽	64	▽
	書くこと	41	47	▽	47	▽
	読むこと	62	68	▽	66	▽

・市平均正答率は、65%であり、全国よりも4ポイント下回っている。
 ・「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」「読むこと」において全国よりも6ポイント下回っている。

特に課題がみられた設問と正答率全国差	無解答が多かった設問とその無解答率の全国との差
・「陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を書き、同じ表現の技法が使われているものを選択する(－12ポイント)	・スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く (22ポイント 差－6ポイント)
・「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかについて、話の展開を取り上げて書く(－8ポイント)	・「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかについて、話の展開を取り上げて書く (19ポイント 差－6ポイント)
・スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く(－6ポイント)	・漢字を書く(のぞく) (12ポイント 差－3ポイント)
・農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文を下書きにスマート農業の効果を書き加える(－5ポイント)	・農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文を下書きにスマート農業の効果を書き加える (12ポイント 差－3ポイント)

【中学校3年生 数学】 ○：市が3ポイント以上上回るもの ▼：市が3ポイント以上下回るもの

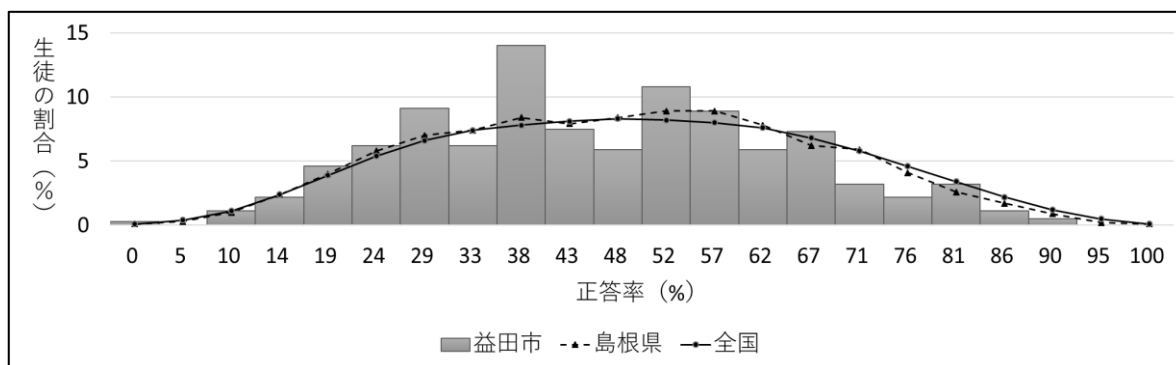


		益田市	全国	益田市－全国	県	益田市－県
教科総合		45	51	▼ -6	49	▼ -4
領域	数と式	47	57	▼ -10	54	▼ -7
	図形	38	44	▼ -6	41	▼ -3
	関数	35	44	▼ -9	39	▼ -4
	資料の活用	59	57	2	57	2

・市平均正答率は、45%であり、全国よりも6ポイント下回っている。
 ・「数と式」は10ポイント、「関数」は9ポイント、「図形」は6ポイント全国よりも下回っている。

特に課題がみられた設問と正答率全国差	無解答が多かった設問とその無解答率の全国との差
<ul style="list-style-type: none"> ・自然数を素数の積で表すことができる(-17ポイント) ・簡単な連立二元一次方程式を解くことができる(-9ポイント) ・反例の意味を理解している(-5ポイント) ・一次関数の変化の割合の意味を理解している(-15ポイント) ・問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる(-4ポイント) ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる(-14ポイント) ・結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる(-8ポイント) ・与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる(-8ポイント) ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる(-4ポイント) ・証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している(-9ポイント) ・筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる(-4ポイント) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然数を素数の積で表すことができる(17ポイント 差-5ポイント) ・簡単な連立二元一次方程式を解くことができる(11ポイント 差-5ポイント) ・問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる(9ポイント 差-3ポイント) ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる(27ポイント 差-7ポイント) ・結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる(32ポイント 差-6ポイント) ・与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる(12ポイント 差-4ポイント) ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる(31ポイント 差-7ポイント) ・証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している(13ポイント 差-5ポイント) ・筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる(47ポイント 差-9ポイント)

【中学校3年生 理科】 ○：市が3ポイント以上上回るもの ▽：市が3ポイント以上下回るもの



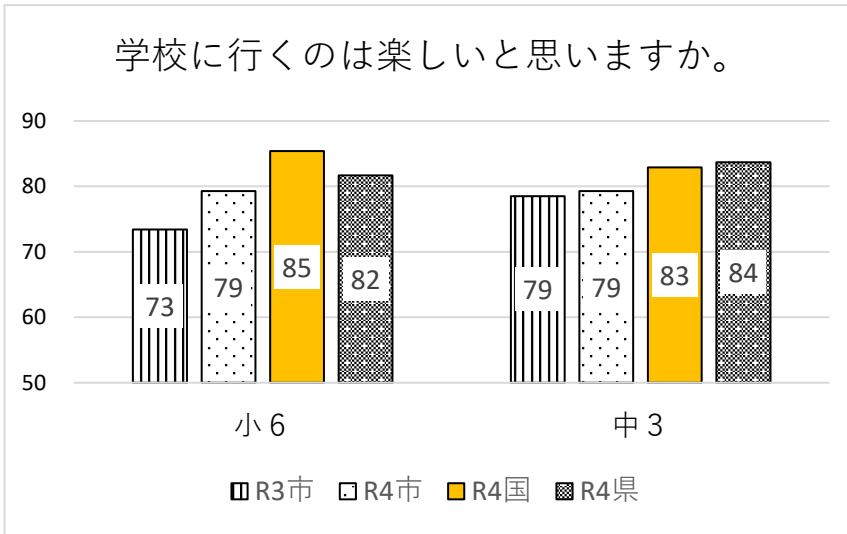
		益田市	全国	益田市－全国	県	益田市－県	
教科総合		46	50	▽	-4	48	-2
領域	「エネルギー」を柱とする領域	41	42		-1	41	0
	「粒子」を柱とする領域	47	51	▽	-4	50	▽
	「生命」を柱とする領域	54	58	▽	-4	57	▽
	「地球」を柱とする領域	41	44	▽	-3	44	▽

- ・市平均正答率は46%であり、全国より4ポイント下回っている。
- ・粒子を柱とする領域が4ポイント、生命を柱とする領域が4ポイント、地球を柱とする領域が3ポイントなどすべての領域で全国平均を下回っている。

特に課題がみられた設問と正答率全国差	無解答が多かった設問とその無解答率の全国との差
<ul style="list-style-type: none"> ・予想や仮説と異なる実験結果が出る場合、その意味することや考えられる可能性について考え、実験の操作や条件制御の不備の可能性を指摘する(－8ポイント) ・水素を燃料として使うしくみの例の水の質量の変化について、適切なものを選択する (－8ポイント) ・玄武岩の露頭で化石の観察が可能か判断し、その理由を選択する (－8ポイント) ・アリが視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を基に、課題に正対した考察を記述する (－7ポイント) ・観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を空気の柱の長さで説明する際、適切な長さの変化を選択する (－6ポイント) ・分子のモデルで表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す (－5ポイント) 	<ul style="list-style-type: none"> ・考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する (40ポイント 差－10ポイント) ・アリが視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を基に、課題に正対した考察を記述する (21ポイント 差－10ポイント) ・予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合、その意味することや考えられる可能性について考え、実験の操作や条件制御の不備の可能性を指摘する (24ポイント 差－9ポイント)

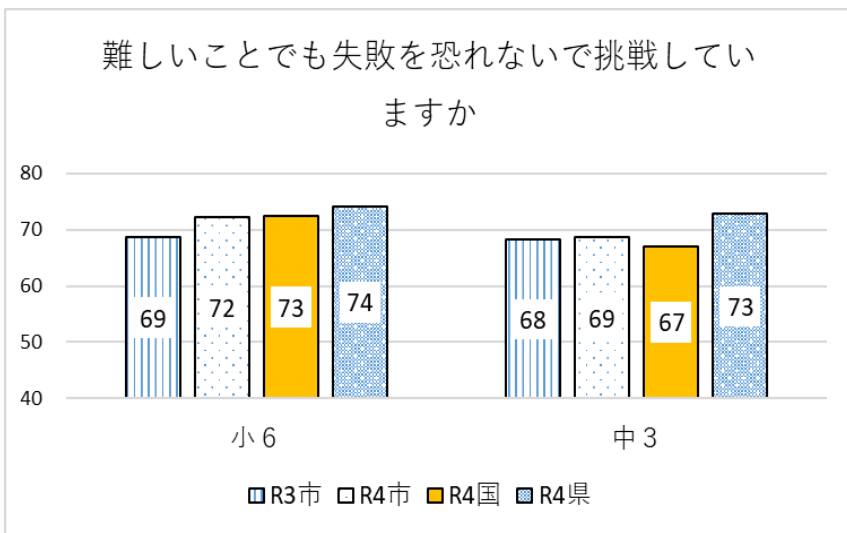
V 児童生徒質問紙（生活・学習に関する意識調査）及び学校質問紙調査の結果

(1) 学校が楽しい



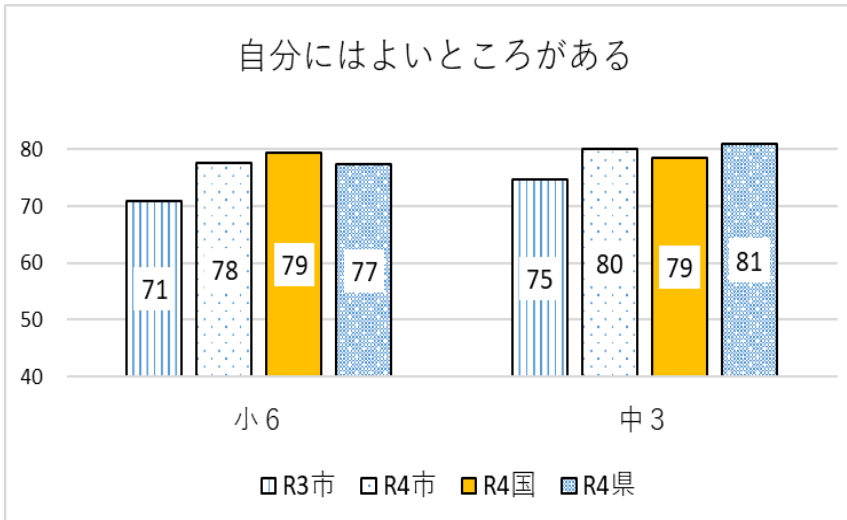
- ・小6については、全国平均よりも6ポイント低く、県平均よりも3ポイント低かった。令和3年度よりも6ポイント高かった。
- ・中3については、全国平均よりも4ポイント低く、県平均よりも5ポイント低かった。令和3年度と同じであった。

(2) 難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦する。



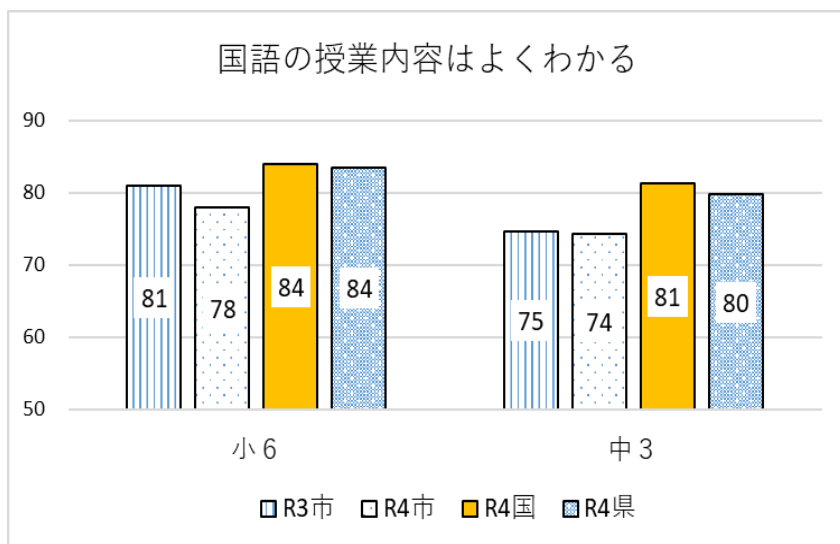
- ・小6については、全国平均よりも1ポイント低く、県平均よりも2ポイント低かった。令和3年度よりも3ポイント高かった。
- ・中3については、全国平均よりも2ポイント高く、県平均よりも4ポイント低かった。令和3年度よりも1ポイント高かった。

(3) 自分にはよいところがある



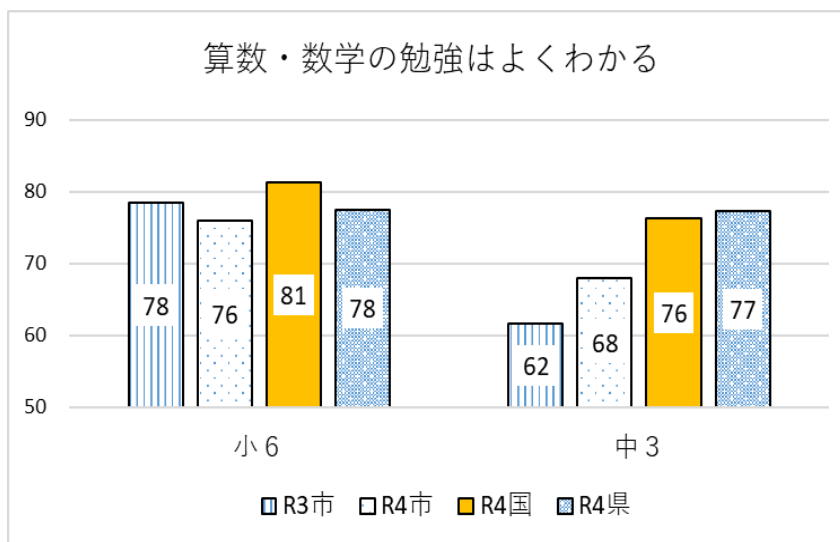
- ・小6については、全国平均よりも1ポイント低く、県平均よりも1ポイント高かった。令和3年度よりも7ポイント高かった。
- ・中3については、全国平均よりも1ポイント高く、県平均よりも1ポイント低かった。令和3年度よりも5ポイント高かった。

(4) 国語の授業はよく分かる



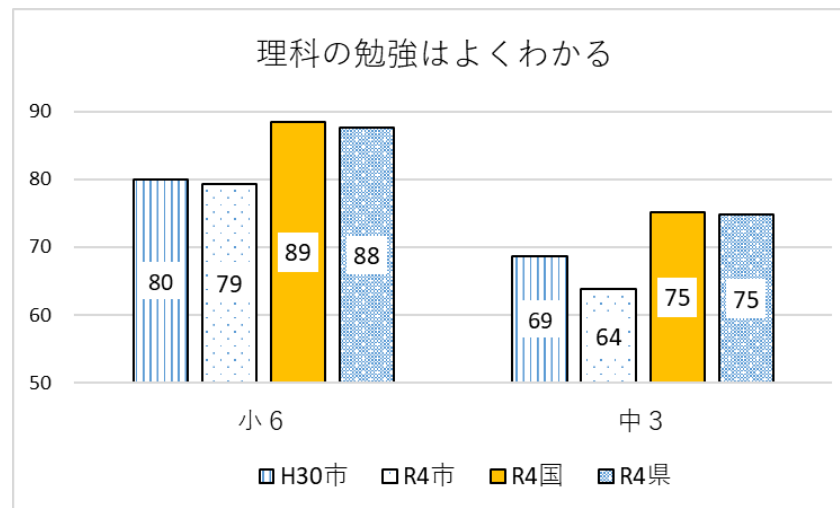
- ・小6については、全国平均よりも6ポイント低く、県平均よりも6ポイント低かった。令和3年度よりも3ポイント低かった。
- ・中3については、全国平均よりも7ポイント低く、県平均よりも6ポイント低かった。令和3年度よりも1ポイント低かった。

(5) 算数・数学の授業はよく分かる



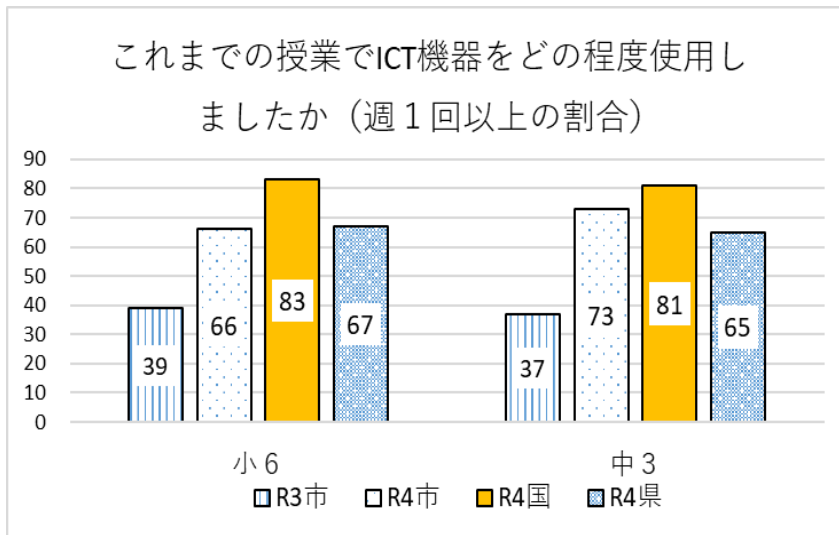
- ・小6については、全国平均よりも5ポイント低く、県平均よりも2ポイント低かった。令和3年度よりも2ポイント低かった。
- ・中3については、全国平均よりも8ポイント低く、県平均よりも9ポイント低かった。令和3年度よりも6ポイント高かった。

(6) 理科の授業はよく分かる (前回は平成30年度実施)



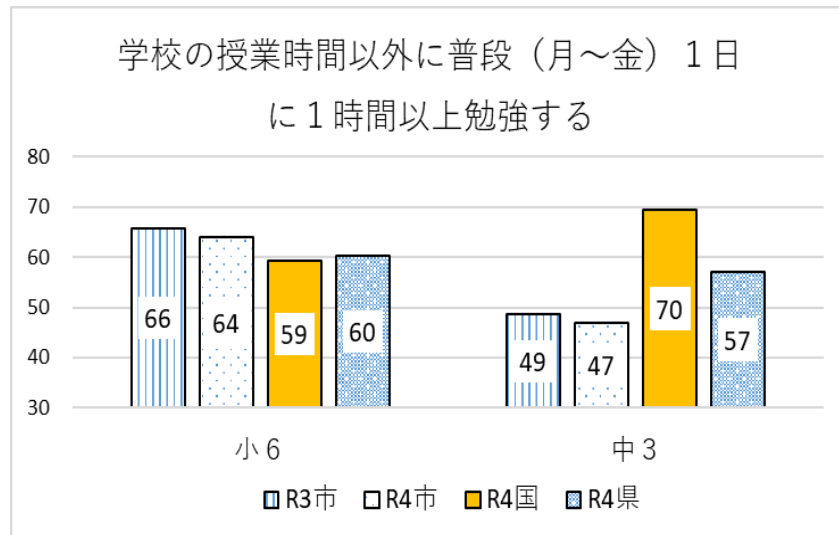
- ・小6については、全国平均よりも10ポイント低く、県平均よりも9ポイント低かった。平成30年度よりも1ポイント低かった。
- ・中3については、全国平均、県平均よりも11ポイント低かった。平成30年度よりも5ポイント低かった。

(7) ICTの活用の充実



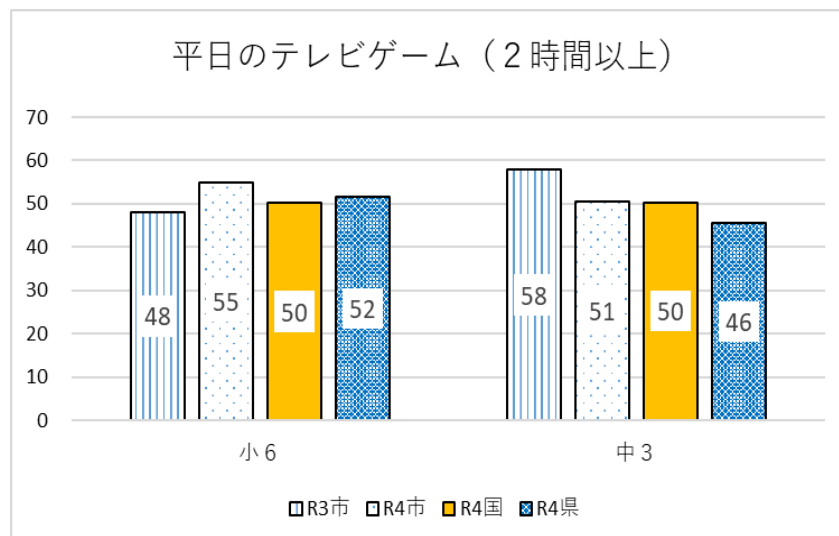
- ・小6については、全国平均よりも17ポイント低く、県平均より1ポイント低かった。令和3年度よりも27ポイント高かった。
- ・中3については、全国平均よりも8ポイント低く、県平均よりも8ポイント高かった。令和3年度よりも36ポイント高かった。

(8) 平日の家庭学習時間



- ・小6については、全国平均よりも5ポイント高く、県平均よりも4ポイント高かった。令和3年度よりも2ポイント低かった。
- ・中3については、全国平均よりも23ポイント低く、県平均よりも10ポイント低かった。令和3年度よりも2ポイント低かった。

(9) 平日どのくらいの時間テレビゲーム（パソコン、スマホ、携帯等）をしていますか。



- ・小6については、全国平均よりも5ポイント高く、県平均よりも3ポイント高かった。令和3年度よりも7ポイント高かった。
- ・中3については、全国平均よりも1ポイント高く、県平均よりも5ポイント高かった。令和3年度よりも7ポイント低かった。